

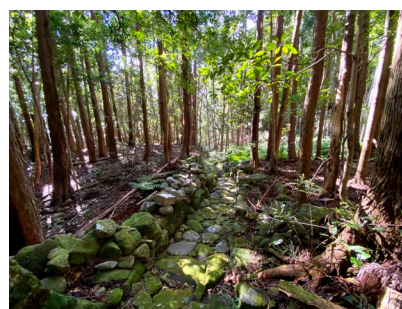
（4）北輪内地域 ① 三木浦地区



1) 地域の概況

◆ 位置・環境

- ・三木浦地区は賀田湾の東部に位置し、賀田湾に面して北側の斜面に家屋が建ち並ぶ漁業集落です。
- ・三木浦地区は東西に長く、東部には元盛松より集団移転してきた集落が立地しています。
- ・賀田湾の北東の入江に位置している三木浦漁港は第4種漁港に指定されており、台風など荒天時には多くの船舶の避難港として利用されています。



元盛松集落遺構

◆ 歴史文化

三木浦は、海上交通や漁業の上で重要な港であるとともに、軍事の上でも重要な拠点であったため、戦国時代には4度も戦場となりました。三木荘（旧北輪内・九鬼村）を治めていた三鬼新八郎は三木浦に三木城を築城しましたが、天正3年（1573年）には新宮の堀内安房守氏善が攻めてきて、一度は退散したものの、再び攻めてきた堀内氏善の大軍に敗れました。その後、長島の加藤甚五郎が赤羽の奥村新之丞と共に不意に三木城を攻め、加藤氏はそのまま三木城に居残りしました。堀内氏善は三木城を取り返えさんと翌天正4年に大軍を率いて三木城へ攻め、四方八方へ逃げた加藤の軍勢からは多数の死傷者を出しました。



三木神社



三木城跡

そして、三鬼新八郎の息子三鬼勘六は加藤肥後守に仕え、知行千石を領したと言われ、また三鬼新八郎ゆかりの坂本勘兵衛が三木浦に在住し、紀州藩から地士としての待遇を受けました。現在では、三木城跡が市指定史跡、三木城跡の五輪塔が市指定文化財（建造物）となっています。

◆ 土地利用

- ・三木浦地区は都市計画区域外にあり、三木埼の周辺は自然公園特別地域（第1～3種）に指定されています。
- ・賀田湾に面した斜面地に密集して漁業集落が広がっており、三木浦漁港に面した低地部には漁業関係施設などが立地しています。
- ・地区の中程には三木城跡、西側には三木浦マリナーパークが立地しています。



三木浦漁港

◆ 都市基盤

- ・三木浦地区の北側を国道 311 号が通っていますが、国道と集落の間には高低差があるため、自動車では海岸沿いを通るアプローチ道路によるアクセスとなります。
- ・三木浦マリナーパーク、三木埼園地があります。



三木小学校

◆ 産業

- ・主要な産業は漁業であり、真鯛の養殖や冬季の伊勢エビ漁が盛んであるとともに、遠洋漁業船の基地となっています。
- ・周辺の森林では林業が行われています。

2) 地域（まち）の将来像

地域の歴史文化資源や豊かな自然環境の活用と 地場産業の漁業を活かした快適に暮らせるまちづくり

三木浦地区内に残る三木城跡をはじめ、元盛松の集落遺構や木名狼煙場などの隠れた歴史文化資源の活用とともに、三木浦漁港や周辺の豊かな自然環境を活かした地場産業とまちなか観光の強化を図り、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

3) 地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱 1

地場産業の強化による漁業集落の維持・発展

天然の良港である三木浦漁港に育まれた漁業と地区の特産品である椿油の生産の強化を図ることにより、地域特有の景観を有する漁業集落の維持・発展を進めます。

◆ プロジェクトの方向

- ・マダイやマハタの養殖の振興と情報発信
- ・三木浦漁港の観光漁業（体験観光）としての活用の検討
- ・地区特産品の椿油の生産強化による地域振興

◆ まちづくりの柱 2

自然環境の保全と歴史的資源等の活用による観光ルートづくり

集落内の城山（三木城跡）の維持管理と散策ルートづくりと、集落周辺の自然環境や、三木埼遊歩道、三木埼灯台、木名狼煙場及び元盛松の集落遺構等のまちづくり資源の保全・活用により、海や山から周遊できる観光ルートづくりを進めます。

◆ プロジェクトの方向

- ・城山の維持管理と散策ルートづくりと情報発信
- ・三木埼遊歩道、三木埼灯台、木名狼煙場及び元盛松の集落遺構等の有効活用と維持管理
- ・海からの景観を楽しむ海の観光ルートづくり
- ・吉野熊野国立公園に配慮した森林の保全

◆ まちづくりの柱 3

公共施設の活用や空き家の適切な利用

地区内に立地する公共施設の適切な利用と維持管理や、空き家の適正な利用による良好な集落環境の維持、形成を図ります。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 公共施設の有効活用の検討
- ・ 三木小学校の活用の検討
- ・ 三木浦児童公園の避難場所としての利用と高齢者等が利用しやすい避難路の整備
- ・ 空き家を漁業従事者や移住者の住宅として活用

◆ 北 輪 内 地 域 ○ 三木浦地区 のまちづくり方針

地域（まち）の将来像	地域の歴史文化資源や豊かな自然環境の活用と地場産業の漁業を活かした快適に暮らせるまちづくり
------------	---

地域づくりの方針			
まちづくりの柱	1	地場産業の強化による漁業集落の維持・発展	まちづくりの柱 2 自然環境の保全と歴史的資源等の活用による観光ルートづくり
まちづくりの柱	3	公共施設の活用や空き家の適切な利用	



（4）北輪内地域 ② 三木里地区



1) 地域の概況

◆ 位置・環境

- ・三木里地区は、賀田湾の北に位置し、八十川の扇状地に広がる美しい砂浜と緑豊かな丘陵地の集落です。
- ・賀田湾に面する三木里海岸は、白砂青松の海水浴場であり、本地区内には熊野古道のほか歴史的な街道が残っています。
- ・賀田湾に沿って国道 311 号が地区内を通っており、同国道から分岐して熊野尾鷲道路三木里 IC へのアクセス道路が整備されているほか、J R 紀勢本線三木里駅があります。
- ・三木里地区の東側に位置する名柄地区では、本市の地場産業である海洋深層水の製造工場が立地しています。



熊野尾鷲道路（三木里 IC）



防災施設（ヘリポート）

◆ 歴史文化

三鬼島という表現が、治承 4 年（1180 年）に西行法師の来杖した時に詠んだ唄に現れており、三鬼（三木）島とは昔の志摩の国の三鬼という意味です。

三木里浦は、中世から江戸期にかけて西国三十三ヶ所 霊場めぐりが流行し、順礼たちは伊勢から熊野街道を南下し、年間 3 万人から 5 万人も通ったといわれています。

また、八鬼山を越えた順礼や商人たちは、「八鬼山を下り名柄村をへて三木里浦にいたる。ここは入海の船付にして商売の店、旅籠屋立ちならび」（西国 33 ヶ所図会）とある三木里浦で宿をとりました。慶長 6 年（1601 年）には三木（三木里浦）は 76 戸もある集落で、加田村とならんで輪内地域の中心地でした。

また、三木里浦は湾内の漁業権を持ちながら、漁業に従事する人がなく、年間とれ高 244 石もある農業や林業を主体にして商業の栄えたところであり、子弟の教育に熱心で、安政のころから伊藤彦左衛門氏などによって寺子屋が開かれています。

地区内には、紀州六代藩主の徳川宗直侯が、領内巡視のため「御成り」になった時に整備した「御成り道」が現在も残り、三木里海岸では、海岸防備のために紀州五代藩主徳川吉宗の命により植えられた黒松が立派な松林となっています。



三木里海岸

◆ 土地利用

- ・三木里地区は都市計画区域外にあり、八十川河口の南側の一部が自然公園特別地域（第3種）に指定されています。
- ・農業や林業を主体として商業で形成された集落であるため、国道 311 号沿道には商業・サービス施設が立地しています。
- ・国道 311 号の西側の丘陵地は、狭小道路の斜面地に木造住宅が密集した集落です。



三木里小学校

◆ 都市基盤

- ・三木里地区の主要道路は国道 311 号であり、熊野尾鷲道路三木里 IC のアクセス道路が整備されています。
- ・市内外からの利用者に親しまれている、三木里海水浴場があります。
- ・J R 三木里駅が立地しています。



野鳥の小径

◆ 産業

- ・現在の主要な産業は商業・サービス業であり、今後は名柄地区の海洋深層水関連工場周辺の新たな産業集積が望まれています。

2) 地域（まち）の将来像

紀勢自動車道、熊野尾鷲道路を活用した自然体験観光の促進と 快適に暮らせるまちづくり

紀勢自動車道、熊野尾鷲道路を活用した、美しい海岸線や緑豊かな山々の眺望及び世界遺産・熊野古道や歴史街道沿いのまち並みなど、地域の自然や歴史文化資源を活用した誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

3) 地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱 1

地域資源を活かした交流施設づくりと新たな産業の誘致

世界遺産・熊野古道、歴史的まち並みや、三木里小学校等の地域資源を活用した交流施設づくりとともに、海洋深層水などを活かした新たな産業の誘致を促進します。

◆ プロジェクトの方向

- ・歴史的なまち並み景観の活用
- ・三木里小学校の活用を検討
- ・新たな産業集積の検討
- ・三木里茶（釜炒り茶）の特産品づくりと獣害対策
- ・こんにゃく製品等の新たな特産品づくり

◆ まちづくりの柱 2

三木里インターチェンジを活用したまちづくり

三木里インターチェンジからのアクセスの良さを活かし、観光のまちづくりの推進や、防災施設の活用を図ります。

◆ プロジェクトの方向

- ・三木里を周回する散策ルートづくり
- ・防災施設の活用を検討

◆ まちづくりの柱 3

自然環境の保全と観光資源としての活用

白い砂浜と黒松林、野鳥の小径や緑豊かなハイキングコースなどの自然環境の保全と活用を図り、地域の豊かな自然環境を体験できる観光環境整備を進めます。

◆ プロジェクトの方向

- ・熊野古道八鬼山道から三木峠道・羽後峠道までの散策ルートを活かした観光交流の推進
- ・野鳥の小径と周辺環境の維持管理と情報発信
- ・美しい砂浜と松林の三木里海岸の行政と住民の協働による保全と活用
- ・沓川や八十川などのホタルの小径の再生と情報発信

◆ 北 輪 内 地 域 ○ 三木里地区 のまちづくり方針

地域（まち）の将来像	紀勢自動車道、熊野尾鷲道路を活用した自然体験観光の促進と快適に暮らせるまちづくり
------------	--

地域づくりの方針			
まちづくりの柱	1	地域資源を活かした交流施設づくりと新たな産業の誘致	まちづくりの柱 2 三木里インターチェンジを活用したまちづくり
まちづくりの柱	3	自然環境の保全と観光資源としての活用	



